

# 達磨

必勝祈願として多くの信仰を集めているものに「達磨人形」があります。

当社でも「必勝達磨」の授与品がございますが、今回の神道豆知識ではこの「達磨人形」を取り上げてみたいと思います。

達磨人形のモデルとなったのは達磨大師だるまだいしという僧侶です。

達磨大師は禅宗の祖とされる人で、六世紀頃の人物です。インドで生まれて中国に渡り嵩山少林寺すぜしやうりんじで壁に向かって九年間座禅を組んで悟りに達したといわれています（面壁九年）

また、達磨人形発祥の地は意外にも日本であり、民俗学者の吉野裕子氏によると群馬県高崎市近郊の少林山達磨寺だとのことです。水戸光圀みとみつくにが帰依していた中国僧心越しんえつぜんじ禪師が開いた寺で、この心越禪師が書いた一筆書きの達磨像を一七八三年、二代目住職東嶽和尚とうがくわしやうが木型にし、当時続いていた天変地異の邪気を祓う呪物として農民達に伝授したことが始まりだとのことです。現在この近辺で作られて全国に出荷されている達磨人形は年間百五十万個に達します。（吉野裕子「ダルマの民俗学」岩波新書）達磨人形の元となったのが一筆描きの達磨像であったなら、この人形に手足のないことも分かります。また俗説では、達磨大師があまりにも長時間座禅をしていた為に手足が腐ってしまったという話もあります。

達磨人形が広く普及したのは室町時代の頃で、当初起き上り小法師の玩具として作られたそうです。赤い衣をまとい、手足のない僧の姿で登場しました。その後、江戸時代中頃に今のような達磨人形の姿になってきました。

なお、達磨人形に「目を入れる」ということには、目が開く、目が出た、両目開眼でお目でたい、願いが叶ったという意味があります。どちらの目を最初に入れるのかというと、決まりはありませんが、右目（向かって左）を入れることが多いようです。ちなみに選挙で用いられたのは昭和五年の総選挙で長野一区の立候補者が最初で、一般化したのは昭和三十年代になってからだということなのです。

## 【参考資料】

少林山達磨寺ホームページ <http://www.daruma.or.jp/>

大法輪 大法輪閣

広辞苑 岩波書店